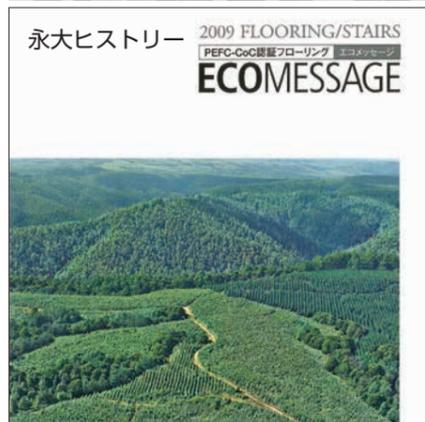


# kigokoro

EIDAI Corporate PR Magazine Winter 2026 / vol.26

kigokoro

Winter 2026 / vol.26



第26号 令和8年1月1日発行  
編集・発行：永大産業株式会社 事業管理部 広報課  
〒559-8558 大阪府住之江区平林南2-10-60 TEL:06-6684-3058 FAX:06-6684-3051

パーティクルボード基材シートフローリング  
**Eグリーンフロア**  
フローリングから、持続可能な未来へ



永大産業株式会社  
www.eidai.com

お客様相談センター

☎ 0120-685-110 [受付時間] 平日9:00~17:00(休業日:土曜日・日曜日・祝日・夏期休暇・年末年始)

EIDAI ショールームでお確かめください。

EIDAI SR

検索



# Eグリーンフロア

パーティクルボード基材フローリング

2025年10月に発売の「Eグリーンフロア」は、高品質で環境にもやさしいパーティクルボードを基材として使用した床暖房対応シートフローリング。資源の枯渇など、さまざまな環境課題の解決に向け、木材資源の有効活用や循環を目指す当社の姿勢をまたひとつカタチにしました。



詳細はこちら



ライトグレイジュ柄(GU)



ハーモニックホワイト柄(WH)



グレースミディアム柄(GM)

当社のグループシナジーにより木質資源の循環に貢献

当社グループは早くから環境課題に目を向け、循環型のものづくりによる持続可能な社会の実現を目指してきました。1969年からはパーティクルボードの製造・販売を開始。パーティクルボードは、建築廃材や間伐材を細かくした木片(パーティクル)に接着剤を加え、熱圧成形する板状の建材です。廃棄物の削減につながり、新たな木材の伐採も抑えることができます。

2019年には、日本最大の生産能力と最新鋭の製造設備を備えたENボード株式会社を設立し、高品質なパーティクルボードをより安定的に供給できる体制を整えました。こうして培ってきたノウハウを最大限に活かして、今回、低比重で床暖房対応可能なフローリング用パーティクルボード基材を開発。これを使ったフローリングの新製品「Eグリーンフロア」の発売に至りました。

「Eグリーンフロア」は、従来は廃棄されていた木質材料を再利用するマテリアルサイクル型製品です。さらに長期間利用することで、内部に炭素を固定する貯蔵庫のような役割も担います。資源の有効活用とCO2削減を両立させた、まさに環境配慮型フローリングといえます。

広くお使いいただけるよう、カラーはベーシックな6色をラインナップ。もちろん、キズが付きにくく、キャスターや車イスもOK、抗菌加工付きといったフローリングとしての基本性能はしっかり備えています。今後も当社グループは、世界で注目されているサーキュラーエコノミー(循環型の経済システム)に貢献するべく、引き続き環境創造型企業としてのあり方を追求してまいります。

開発者の声

## 低比重であることと、基材としての性能を両立するために重ねた苦労

低比重のパーティクルボードは軽くて扱いやすい反面、強度が下がるなどの課題がありました。どのように両立したのか、力を合わせて開発にあたったパーティクルボード事業部と建材事業部のメンバーに聞きました。



「Eグリーンフロア」は2つの事業部、さらにグループ企業との密な連携によって生まれました。

今回の新製品誕生には、グループ企業ENボードの存在が大きく影響しているのです。吉廣パーティクルボードを基材としたフローリング自体の研究は10年ほど前に始まったのですが、当時から当社が持っていた山口PB工場や敦賀PB工場では設備的にフローリング用の基材を作ることができなかつたのです。その後、2019年のENボード株式会社設立によって一気に開発・生産体制が整いました。

池内ただ今回は、低比重でありながらフローリング基材としての性能を満たすというところで苦戦しました。一般に市場で販売されているフローリング用基材のPBの比重は0.78程度であるのに対し、当社が開発したPBの比重は0.72です。低比重になると、同じ量でも軽量となるため、扱いやすく、輸送にかかる環境負荷も抑えらるなどメリットが生まれます。当社の中でもフローリングは売り上げの多くを占めるので、実現できれば大きな影響力を持つので、開発には3年近くかかりました。

具体的に、どういった部分で苦労があったのでしょうか。

池内パーティクルボード基材のチップの密度を低くして強度を担保するとすれば、必然的に接着剤の量が増えます。つまり水分が増えるということ、そのぶんパーティクルボード製造工程での不良の発生リスクも上がるため、強度を確認しながら接着剤の配合量を設定するところに難しさがありました。竹沢(さね)部分の強度を確保するのも大変でした。これはパーティクルボードに使うチップの形状や、配向・散布の方法に工夫を重ねることでクリアしました。また、フ

ローリングとしての意匠性を高めるために、表面をより平滑に仕上げるのも簡単なことではありませんでした。トライ&エラーの末、最終的には当社が建材で培ってきた技術でカバーできました。

池内一度の試作で30トンほどの製品ができるので、資材を無駄遣いしないように考えるのも大変でした。少量だけ短いスパンで試作...というわけにはいかなかったことも、開発に時間がかかった理由のひとつです。

開発で得たノウハウの展開や、製品の広がりについてどのようにお考えですか。

糸井同じように基材にパーティクルボードを使った他社製品と比べて、軽量化を実現できましたので、一線を画す製品になったと自負しています。今回、低比重の実現や平滑性の担保を通して我々の経験値が非常に上がったと思いますので、今後は他製品にも応用できるのではないかと考えています。藤本現在、他社も含めて、南洋材の合板もまだ使われている状況の中、国産で安定供給できるENボード製パーティクルボードを使ったフローリングには多大な意義があると思います。今後も新たな製法開発を進めたいですね。



(写真 後列左から) 建材事業部 商品部 商品一課長 吉廣 仁、次長兼開発室長 藤本 一雄、建材事業部 商品部 開発室 主任研究員 糸井 健  
(写真 前列左から) PB 事業部 企画商品課 竹沢 卓史、池内 貴宏、PB 事業部 企画商品課長 森井 清

# 木の力を活かす

## 木造建築の可能性

4

### ゆずりは保育園(徳島県徳島市)

木材や木造の建築物は環境配慮以外にも、人のストレスを少なくする、疲れにくくするなど、生理的・身体的な効果があると言われています。  
今号では、木造建築の園舎で、保育と医療が一体となった、徳島県初の障がい児支援に特化した認可保育園「ゆずりは保育園」をご紹介します。

#### 預けられる保育園がないなら、自分でつくろう

「保育園についてお聞かせください」  
ゆずりは保育園は、2022年4月に県内初の「障がい児支援に特化した認可保育園」として開園しました。私自身、子どもに障がいがあることで保育園に預けられず、復職もできない経験をしました。その時「預けられる保育園がないなら、自分でつくろう」と考え、会社を辞めて保育園を設立しました。

当園は、認可保育園、個別リハビリ、重心・医療的ケア児支援、放課後等デイサービスの4機能を備えています。医療的ケアとリハビリを通じて乳幼児期の子どもの発達を支え、子どもたちを地域で育てる環境づくりを目指しています。また、障がいのあるなしにかかわらず、共に過ごす「インクルーシブ保育」を通じて、多様性と思いやりを育む保育を実践しています。

#### 木のぬくもりに包まれた こだわりの園舎

園舎は自然素材の温かみを活かした設計で、徳島県産のスギやヒノキを構造材に使

用し、地域材の活用により環境にも配慮しています。

床材には愛媛県産の材木で、直径の大きなもの(大径材)を採用し、断熱材なしでも暖かさを感じられる空間にしました。廊下は昔ながらの縁側のような低い天井と長い木の通路で、子どもたちが安心して歩き、遊べる設計です。広い部屋には柱のない木造トラス構造を取り入れ、高い天井が開放感を生み、子どもたちの自由な発想とびのびした活動を支えます。木の香りに包まれた園舎は、子どもにも保護者にも心地よく、安心できる場所となっています。

#### 木造園舎に込めた、地域と子どもたちへの想い

木造の園舎にしようと考えられたきっかけは？

当初は木造を前提とした設計ではありませんでしたが、設計事務所や一緒に働く保育士と打合せを重ねる中で、木造平屋の持つ温かみに惹かれていきました。建設会社からも「ぜひ地域材を活用して、木造の園舎をつくりましょう」との提案をいただき、木造への想いが強くなりました。木造にすることで、子どもたちが自然

を身近に感じ、木に触れる楽しさを味わえる空間になるのではという期待も膨らみました。また、柱以外では使い道が限られる大径材を活用することで、森林資源を無駄にせず有効活用したいという想いから木造を選びました。さらに、森林の管理不足が続くと健全な木の育成に悪影響を及ぼします。私たちは、木造園舎の建築が、少しでもこれらの課題の解決の一助になればと願っています。今では、木の香りとぬくもりに包まれた園舎は、子どもの感性を育み、地域とのつながりを感じられる場所となっています。

#### 木造園舎にして本当によかった 木造でよかったと思われた点は？

木造園舎の完成は、建設会社の皆様のご尽力により、わずか数か月という短期間で実現しました。完成した園舎に初めて足を踏み入れた瞬間、木の香りに包まれ、心がほっとする幸福感を覚えたことは、今でも鮮明に記憶に残っています。今では「木造にして本当によかった」と実感しています。保護者や見学の方々からも「園舎に入るとホッとする」「優しい木の香りに包まれていて、温かみがある」と大変好評です。この園舎が子どもたちにとって、第2のおうちとなるよう、木造ならではのやさしさと落ち着きある空間づくりを大切にしていきたいと考えています。

床材には厚さ30mmの無垢材を使用し、裸足でも冷たさを感じず、ハイハイをして転んでも優しく受け止めてくれる安心感があります。特に屋外の廊下は雨風が当たる場所ですが、子どもたちが裸足で歩く場所のため、ささくれによるケガを防ぐために、床の状態には細心の注意を払っていま



木造トラス構造を採用した、柱のない広々とした大きな部屋



お遊戯やお昼寝をする大きな部屋



昔ながらの縁側



裸足で歩いても気持ちのよい廊下



広々とした園庭



ゆずりは保育園

ゆずりは保育園 【住所】徳島県徳島市中島田町4丁目53-1  
【ホームページ】https://yuzu-reha.jp

※一部画像提供：ゆずりは保育園様



株式会社 ハビリテ  
代表取締役 太田 恵理子様

自然とともに育ち、未来へつなぐ保育  
これからの展開や計画はありますか？  
子どもたちが四季の移ろいを感じ、五感を使って遊べる園庭を作りたいと考えています。それも、遊具ではなく砂場や築山、植林など、自然の中でのびのびと遊べる園庭づくりを目指します。  
また、小学校入学後も支援できるように、放課後等デイサービスの設置も視野に入れています。0歳から18歳まで一貫した支援体制を築き、子どもたちの成長を長く見守る環境を整えたいと願っています。  
将来的には、保育と医療(リハビリ・看護)を融合した当園のような施設を全国に展開したいという夢もあります。新たな施設も木造にし、子どもたちがあたたかい「木」に包まれて安心してすくすく育ってほしい——その想いは、これからも変わることはありません。



ちょっと  
一息の  
木と  
短歌

奥山の

真木まきの葉しのぎ

降り雪の

降りが増すとも

地に落ちめやも

橘奈良麻呂  
たちばなのならまろ

政変を企てて失墜した  
橘奈良麻呂の若き日の繊細な一首

橘奈良麻呂は奈良時代の貴族で、橘諸兄(たちばなのもろこの子)として生まれました。聡明で志の高い人物でしたが、当時に政治の権力を握っていた藤原仲麻呂(恵美押勝)と対立するようになり、彼を滅ぼそうと30代半ばで『橘奈良麻呂の変』(757年)を起こします。しかし、この企ては密告によって未遂に終わり、奈良麻呂は失脚して後に獄死しました。

不屈の精神力と読むか  
届かぬ恋心と読むか、解釈は二分

『奥山の』の歌は、『万葉集』の巻八に収められています。巻八は、主に天平期(729~749年)の自然・四季の歌を集めた巻。したがって、この歌は奈良麻呂が20代で詠んだものであり、政治の渦に飲み込まれる以前の若く繊細な感性がうかがえます。

「真木」は、杉や檜などの常緑樹を指す古語です。「奥深い山で、木々の葉に降りかかる雪よ。いくら降りしきっても、地面まで落ちることがあるだろうか」。常緑樹の葉は硬く丈夫なため、雪はなかなか地面に落ちません。解釈としては「どんなに降り積もるような困難や悲しみがあっても、しっかりと受け止めて崩れ

ないという心の強さを表す」と読む説、「想っても想っても、相手に届かない恋心を雪とかけている」と読む説、この二通りがあるようです。

戦後さかんに植えられた杉や檜、  
活用促進と再造林が今の課題

「真木＝真の木」とされたように、杉や檜は『日本書紀』にも優れた用材として記されています。1950年代からは高度経済成長期の木材需要に対応するため、全国でこれらの木を植える造林が推進されました。現在、木材利用に適した時期を迎えているため、国産材の活用、さらに再造林の際は花粉の少ない広葉樹も取り入れるなどの取り組みが進められています。

鑑賞のヒント

「しのぎ」は押さえつけるという意味。「葉を押しさえつけるように降る雪」。「地に落ちめやも」は反語表現で、「地に落ちるだろうか、いや落ちまい」。あえて疑問形にすることにより、逆に落ちないことの確かさを強調し、読み手に強く印象つけています。

EIDAI Headline News

TBS金曜ドラマ 美術協力

フェイクマミー



当社は、10月10日にスタートしたTBS金曜ドラマ「フェイクマミー」に美術協力しました。会社経営者の母親と6歳の娘が住む高級マンションのセットに、非木質意匠フロアリング『コンカーボ ベージュマーブル柄』と室内ドア・クロゼット『スキスムT ノーブルベージュ柄』が使われました。やわらかなベージュ柄が、ヨーロッパで上品かつ個性的な空間を演出しています。



詳細はこちら



『コンカーボ』はモチーフとした素材の意匠性だけでなく、それぞれのテクスチャーにもこだわった非木質意匠フロアリングです。室内ドアとクロゼットには、デザインやディテールにこだわった『スキスム T』が使われました。ノーブルベージュ柄などのトレンド感のあるカラーや繊細な質感のアイテムが揃っています。今回のセットは、大理石の滑らかな質感と濃淡がアクセントのフロアリングと、やわらかなベージュ柄の建具によって、淡いトーンをベースにした空間となりました。家具との調和も美しく、上品でありながら、個性的な印象を持つ部屋に仕上がりました。



1階／●室内ドア「スキスM 室内ドア SVデザイン」ライトグレージュ柄



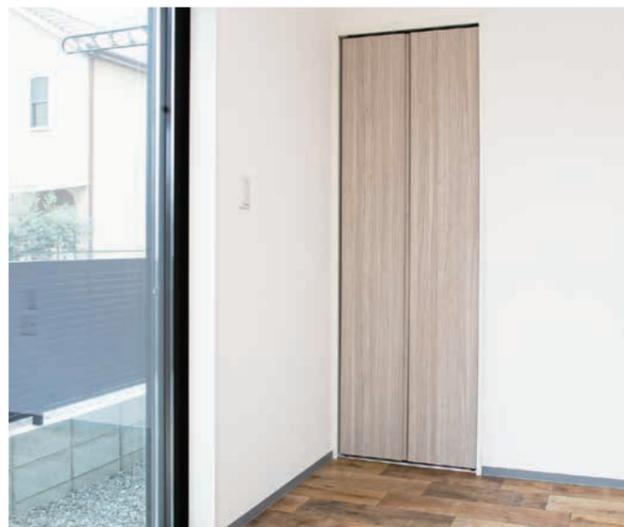
1階／●室内ドア「スキスM 室内ドア FFデザイン」ライトグレージュ柄



2階／●室内ドア  
「マテリアルミックス 室内ドア FFデザイン」  
モルタル調ダーク柄



2階／●室内ドア「マテリアルミックス 室内ドア TMデザイン」  
モルタル調ダーク柄  
●窓枠 PH柄



1階／●クロゼット「スキスM クロゼット折れ戸 FFデザイン」ライトグレージュ柄  
●窓枠 PH柄



中村社長が自らデザインを選び抜かれた  
マンションのサインとルームナンバー。  
おしゃれなフォントがトレンドを感じさせます。



2階キッチン／●コンパクトキッチン「プレッソ」  
コモンスタイル  
天板：ステンレスワークトップ  
ロールエンボス柄  
扉：ライトグレージュ柄  
●ウォールキャビネット  
扉：ライトグレージュ柄



『スキスM S 室内ドア』  
『マテリアルミックス 室内ドア』  
『コンパクトキッチン』『プレッソ』

京都府宇治市、城陽市、京田辺市を中心に新築注文住宅や賃貸物件の建築を展開されている株式会社Style oneホーム様では、このほど、コンパクトキッチン「プレッソ」や、「マテリアルミックス」などを使った賃貸住宅を建築されました。  
今回のkigokoroでは、株式会社Style oneホーム様のこだわりが詰まった賃貸物件をご紹介します。

賃貸の狭小物件ではありますが、住み心地の良い住空間をご提供できるように工夫を凝らしています。キッチンはコンパクトでも調理スペースを確保できるタイプのものを選びました。また、室内ドアとクロゼット扉は、1階はニュートラルカラーのグレージュ系を、2階にはモルタル調を取り入れました。女性の一人暮らしの方にも選んでいただけるよう、随所にこだわりをちりばめています。

今回の物件は、他の住宅メーカーさんにはない、唯一無二な物件が出来上がったと思います。引き締まった印象を受けるブラックの取っ手など、予算の範囲内でハイスペックな部材を使い、仕上がりは満足なものになりました。

当社ではお施主様に、住み心地の良いオーダーメイドの家づくりをご提案しています。土地探しから家の引き渡しまでをワンストップで対応し、高い技術で住み心地の良い空間をご提供します。



株式会社Style oneホーム  
代表取締役  
中村 雄一様



# 日本の木になる風景

石川県金沢市 兼六園「唐崎松」



日本三名園の一つ、加賀百万石の文化を色濃く映し出す。

JR金沢駅から路線バスで約10分。加賀歴代藩主が約180年という歳月をかけて築いた加賀百万石の文化と歴史の象徴でもある兼六園。広大な園内は約11ヘクタールと東京ドーム2.4倍もある。春は桜、夏は緑、秋の紅葉、冬の雪吊りなど四季折々の風景を楽しむことができる。

今回は冬に訪れた。雪がシンシンと散らつく中、散策していると冬支度を終えた唐崎松が迎えに来てくれた。この黒松は近江八景のひとつ「琵琶湖の唐崎」から種子を取り寄せ育成したそう。水面にそって伸びた枝ぶりはとても迫力があり、湖面に映す姿も美しい。

最近では北陸地方も雪の量が減ってきているそうだが、樹木の枝が雪の重みで折れないように縄や針金を使って吊る「雪吊り」はこの地方の冬の風物詩でもある。毎年11月頃から12月半ばまでの期間を用いて一本一本手作業で縄をかけていくそう。外国人観光客もこの日本独特の文化に足を止め、思い出を写し取っていた。

他にも兼六園のほぼ中心に位置する園内最大の池、霞ヶ池や滝の音が涼感を誘う瓢池にはカモノなどの水鳥が羽を休めていた。白と緑で彩られた園内をゆっくりと散策した後、近くの金沢城公園や和漢洋を折衷したアーチ形の神門がある尾上神社、近江町市場など前田家が築き上げた加賀の歴史に浸りながら帰路に就いた。

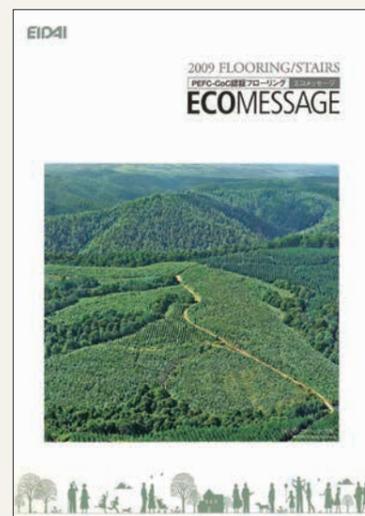
## EIDAI HISTORY 第26回 建材(木質フローリング)

前回に引き続き、建材(木質フローリング)の歴史についてご紹介いたします。

2000年代初頭、地球規模で環境保全や森林保護の重要性が叫ばれるようになり、違法伐採の取り締まりや伐採規制が強化され、インドネシアやマレーシアからの輸入合板価格が高騰。入手が困難となり、木材業界は大きな転換期を迎えました。2006年には、わが国の合板業界も13年ぶりに価格高騰の波に見舞われ、フローリング基材においても、南洋材合板からの転換が急務となりました。

当社では、それ以前から基材の「脱ラワン化」を模索しており、その中で注目したのがタスマニア産ユーカリでした。ユーカリは、①南洋材に匹敵する性能を保持し、②コスト面でも優位性があり、③将来的にも安定

した供給体制が整っているという三拍子そろった素材でした。さらに、タスマニア産ユーカリは世界的な森林管理認証であるPEFCの認証林から供給されており、環境への配慮も申し分ありません。当社は2006年11月、PEFC認証材が加工・流通の過程で他の木材と混ざることなく管理されていることを証明する「COC認証」を取得しました。そして翌2007年6月には、業界初となるPEFC-COC認証フローリング「エコメッセージフロア」を全国発売しました。



『エコメッセージフロア』のカタログの表紙

いると判断されました。中でもタスマニア産ユーカリは資源量が豊富で、将来的にも安定供給が可能。ユーカリは比重が0.7と軽く、ラワン(0.5〜0.6)に比べて剛性が高

く、曲げやたわみ、反り、狂いが少ない。耐久性にも優れています。ユーカリのフロア合板はこれまでになく、品質は未知数でしたが、環境にもやさしく、サステナブルで、タスマニア州政府のバックアップも受けられるという点も大きな魅力でした。

『エコメッセージフロア』として正式発売にこぎつきました。2008年9月には、フローリング構成中の南洋材使用量を70%以上削減し、環境配慮とコストパフォーマンスを両立させた『エコメッセージV』を発売。『エコメッセージフロア』に比べて約20%のコストダウンを実現しました。さらに、『エコメッセージフロア』の発売を足掛かりに、2011年度には基材を南洋材からユーカリに置き換え、環境配慮型フローリングの占有率を80%にまで高めるという方針を発表しました。当時の社長は「環境配慮とコストパフォーマンスを両立させることが、トップメーカーとしての責務です。真の意味で環境に貢献する市場を育成したい」と意気込みを語っています。

こうして、満を持して発売された環境配慮型フロア『エコメッセージフロア』『エコメッセージV』は、環境保護を標榜するハウスメーカーなどから一定の引き合いがあり、市場にも認知されていきました。しかしこの後、開発担当者や製品プロモーションの担当者も想定していなかった「重さ」「施工性」という問題がクローズアップされ始めました。(次号に続く)

『エコメッセージフロア』として正式発売にこぎつきました。2008年9月には、フローリング構成中の南洋材使用量を70%以上削減し、環境配慮とコストパフォーマンスを両立させた『エコメッセージV』を発売。『エコメッセージフロア』に比べて約20%のコストダウンを実現しました。さらに、『エコメッセージフロア』の発売を足掛かりに、2011年度には基材を南洋材からユーカリに置き換え、環境配慮型フローリングの占有率を80%にまで高めるという方針を発表しました。当時の社長は「環境配慮とコストパフォーマンスを両立させることが、トップメーカーとしての責務です。真の意味で環境に貢献する市場を育成したい」と意気込みを語っています。

こうして、満を持して発売された環境配慮型フロア『エコメッセージフロア』『エコメッセージV』は、環境保護を標榜するハウスメーカーなどから一定の引き合いがあり、市場にも認知されていきました。しかしこの後、開発担当者や製品プロモーションの担当者も想定していなかった「重さ」「施工性」という問題がクローズアップされ始めました。(次号に続く)

永大産業株式会社 事業管理部 広報課 ©2025Eidai Co., Ltd.

で絵巻物の一場面のような。淡路島の穏やかな風景を眺めながら、ふと阪神・淡路大震災からの復興を思いました。あの日から長い年月を経て、今では平穏な空気が当たり前のよう広がっていることに、人間の底力を感じます。自然と「この景色をいつまでも眺めていたい」という想いが込み上げました。

お断り：原則、文中での敬称は省略させていただいております。



永大産業株式会社 金沢営業所 [住所] 石川県金沢市小坂町北207-2 [TEL] 076-252-5302

地場のお客様に寄り添った営業を行っています。永大産業株式会社 金沢営業所は7名のメンバーで、北陸3県(富山、石川、福井)と岐阜県の一部という広域を担当している営業所です。地場のルート営業を中心に、若手と経験豊富なベテランがフットワークよく、お客様に寄り添った営業を行っています。お近くにお越しの際には、ぜひお立ち寄りください。



【後列左から】末広、文下、加藤、森田  
【前列左から】宮澤、林(所長)、吉田



「なんでやねん」のトンべい焼き定食

営業マンのオススメランチ!!

- 1946 (S21)
1950 (S25)
1955 (S30)
1960 (S35)
1965 (S40)
1970 (S45)
1975 (S50)
1980 (S55)
1985 (S60)
1990 (H2)
1995 (H7)
2000 (H12)
2005 (H17)
2010 (H22)
2015 (H27)
2020 (R2)
2021 (R3)
2022 (R4)
2023 (R5)
2024 (R6)
2025 (R7)
2026 (R8)

編集後記

「木の力を活かす」の取材で徳島を訪れました。取材には大抵、鉄道を利用しますが、今回は高速バスに乗り。いつもはバスに乗るとすぐに眠ってしまいますが、今回は車窓から広がる淡路島の山並みや鳴門大橋の眼下に見える渦潮に心を奪われ、仕事ではあるものの思いがけず旅情を感じるひとときとなりました。冬の澄んだ空気に映える景色は、まる